

キャラクター名
八坂 深咲(ヤサカ ミサキ)

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	ゼノスエージェントC	カヴァー	ゼノスメンバー
	キュマイラ					
オプション			年齢	15くらい	性別	女
覚醒	犠牲	衝動	憎悪	初期侵食率	34	%
出自	天涯孤独	経験	永劫の別れ	邂逅	居場所	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	37
肉体	6		0	2		8	行動値	3
感覚	0		0	1		1	(非装備時)	3
精神	0	1	0			1	戦闘移動	8
社会	2		0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1	2	調達	1	
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	1		情報:ゼノス	1	
運転:			芸術:			知識:機械工学	1		情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
一角鬼	白兵	8r+9	2	LV+5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
整った編み目の組紐(思い出の一品)	
↑ブランケット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
野獣本能	P	N		
雪(PU)	P 幸福感	N 食傷		
シノギ(GR)	P 尽力	N 不安		
	P	N		
雨	P 友情	N 不安		
ハルキ	P 庇護	N 不安		
めぐる	P 遺志	N 劣等感		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
進化の大爪	5	2	セット	至近	自身	自動	-	
効果:	《完全獣化》効果中ラウンド間白兵攻撃力+[LV*3]							
一角鬼	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	素手変更							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間【肉体】判定ダイス+[LV+2]							
巨獣の爪牙	★	2D10	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果:	メインプロセスを2回行う、素手のみ、1回/シナリオ							
コンセ:キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-[LV](下限7)							
深き傷痕	7	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	HPダメージ後次にを行う攻撃力-[LV*2]							
軍神の守り	★	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	カバーリング、行動消費なし、1回/メイン							
プロジェクト・バベル	◇		尽力				メモ	
効果:	プランナーの導きで向かった塔で起きた事件、生きる理由はなにも自分のためだけではない							
鋭敏感覚	★	-	メジャー	-	-	自動	-	
効果:	周囲の状況変化に敏感になる							
獣の直感	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	わずかな気温や湿度の変化を読み取る							
至上の毛並み	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	《完全獣化》の姿が他者を魅了する美しさになる							
変貌の果て	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	オーヴァードになる以前と外見が異なる							
効果:								

鬼の子として山奥に捨てられ、RBに囲まれ育った、孤独な少女。

生まれた時よりオーヴァードであり、能力を使うときにのみ色素が極端に薄くなるという特徴があったため、『鬼の子』として7歳の頃に山に捨てられた。しかし当時の能力はごくごく微弱で、所謂「イージー」に分類するものしか使えず、しかも安定して能力をコントロールできるわけでもなかったため、何かに迷惑をかけたわけではない。

ただその特徴から「普通ではない」ことを、隣人からは勿論、親からも疎まれて育ったため、人間に恐怖に似た感情を抱いている。誕生日も知らなければ、自分の年齢すらも知らないのはこれが理由。

ちなみにこれは余談であり当人の知る由もない話であるが、実の両親はこの件により彼女を捨てた際に村を追い出されているらしい。そんなこんなで安定しない能力に強いコンプレックスを抱いていたこともあって、山奥から出ることを恐れていた。

彼女が能力を大きく開花させたのは、家族が友達が蹂躪された3年前のその日、その姿を見た後。内から湧き出すその衝動に激しく飲まれ、覚醒した。自身の能力覚醒があまりに遅かったことを恨まなかったことはない。

そして彼女の色素は薄いままだ着し、以降親譲りの色彩に戻ってはいない。

彼女の獣化姿は、猛々しい大きな双角、鹿を思わせる頭部と胴、爬虫類を思わせる鞭尾。白い姿からも非常に神秘的な形を取る。

故郷を失ってもなお人里に行くことはできずに暫くは静かになった故郷で過ごすも、そこを「偶然」訪れたプランナーに拾われる形でゼノスに所属することとなった。

ゼノスにおいて能力の取り扱い訓練を受けるも、彼女自身が能力についてあまり好いてはおらず、戦うことも嫌いであるため、戦闘向きの能力であるにも関わらず戦闘訓練は最低限しかしていない。

ゼノスの人間にしてはRBに対する興味が薄く、かといってRBのように人間に興味があるわけでもないので組織内では浮いており、最低限の交流しかしていない。しかしその割にプランナーが任務を回してくるので立ち位置も微妙。